

飛び出せ 学校

大分合同小学生新聞

発行者
豊後高田市
草地小学校
4,5,6年生

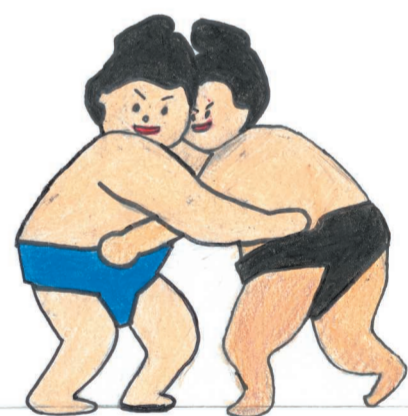
この新聞は、豊後高田市草地小学校の4、5、6年生(光田敦子教諭、赤野文昭教諭、小泊薫教諭)計17人が、大分合同新聞社の記者と一緒に作りました。

神社と学校のつながり

私たちが住んでいる草地区には、春日神社という神社があります。この春日神社は、草地区の歴史と文化の成を代表する神社です。

また、4月に勤王祭というお祭りが行われます。このお祭りは、草地区の歴史と文化の成を代表する祭りで、お祭りに参加することで、草地区の歴史と文化の成を学ぶことができます。

また、10月4日に奉納相撲大会というお祭りが行われます。このお祭りは、草地区の歴史と文化の成を代表する祭りで、お祭りに参加することで、草地区の歴史と文化の成を学ぶことができます。



お祭りが戻ってきた。そして、3月には春日神社に子どもたちが桜の木を植える。桜の木は、草地区の歴史と文化の成を代表する木で、お祭りに参加することで、草地区の歴史と文化の成を学ぶことができます。

発見! 草地の歴史

私たち豊後高田市草地小学校の4・5・6年生は、「草地の魅力や自慢」について調べました。私たちの住む草地区は、自然に囲まれたとても美しい場所です。また、歴史ある神社や伝統ある盆踊りなどがあります。そんな草地の魅力や自慢について調べると、知っていたつもりでも知らないことがたくさんありました。みなさんにも、草地の魅力や自慢を知ってもらえたらいいです。

約1200年前にできた春日神社



山本龍司さん
お話を聞きました。春日神社は、約1200年前に建てられたとされています。春日神社は、草地区の歴史と文化の成を代表する神社で、お祭りに参加することで、草地区の歴史と文化の成を学ぶことができます。



春日神社は、年間を通して祭りが多く、かつて雨の降らない年には臨時の大祭である雨乞いの「潮汲み神事」が行われました。文政8(1825)年の様子を描いた「春日社潮汲み神事絵巻」が当社に所蔵されており、平成21(2009)年にこの神事が75年ぶりに再興され盛大に執り行われました。

守り続ける 草地踊り

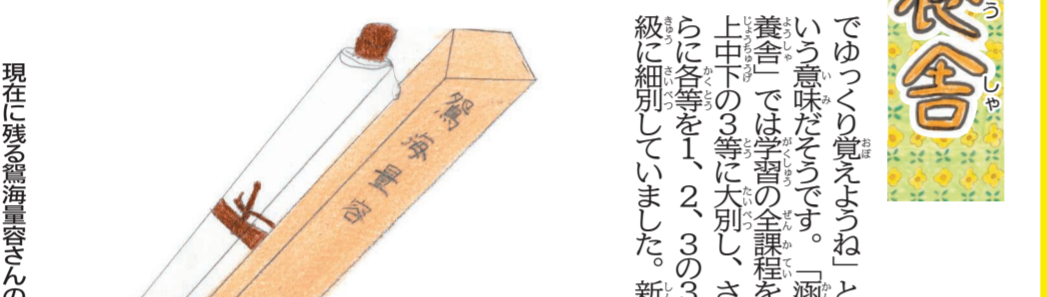


草地小学校では、毎年ゲスティチャーとして近藤勝司さん(60)を招いて、太鼓・踊り・口説きを分けて、草地区の歴史と文化の成を学ぶことができます。

盆踊りになりました。以来、280年以上の伝統を持っています。また、昭和8(1933)年に出場した全国郷土民謡大会で優勝して、世界的に有名になりました。



江戸時代の私塾「涵養舎」
私たちが住んでいる草地区には、江戸時代・天保14(1843)年にあった私塾「涵養舎」があります。涵養舎は、草地区の歴史と文化の成を代表する塾で、お祭りに参加することで、草地区の歴史と文化の成を学ぶことができます。



現在、草地区には「涵養舎」の跡地や、涵養舎の石碑が残っており、地元の人たちが大切に守られています。私たちが住んでいる草地区には、涵養舎と同じように、草地区の歴史と文化の成を学ぶことができます。

近藤勝司さん
草地小学校では、毎年ゲスティチャーとして近藤勝司さん(60)を招いて、太鼓・踊り・口説きを分けて、草地区の歴史と文化の成を学ぶことができます。

盆踊りになりました。以来、280年以上の伝統を持っています。また、昭和8(1933)年に出場した全国郷土民謡大会で優勝して、世界的に有名になりました。

新聞ができるまで

豊後高田市中心部からほど近く、豊かな歴史と自然に囲まれた草地小学校。魅力ある地域を多くの人に知ってもらおうと、4〜6年生計17人が新聞作りに挑戦した。取材を前に大分合同新聞社豊後高田支局の大崎優志記者(26)が導入授業をした。記事の書き方や取材のポイントなどを解説。質疑応答などを通し、記者の心構えを学んだ。地域内に歴史的な事柄が多くあることから「地域の魅力や自慢」をテーマにして取材活動に取り組んだ。昨年6月、市教委文化財室の大山琢央さん(43)が来校し、地区内にかつて存在した私塾「涵養舎」とその創設者「篤海量容」について授業。創設者の経緯や仕組みを学んだ。量容の下で学びたいと全国から集まった門下生の情熱に触れ、校歌にも登場する量容の人柄への理解を深めた。



同月下旬には春日神社を見学。同社に所蔵される絵巻物のレプリカや山本龍司宮司の説明から神社の歴史や地域での役割、学校との関わりなどを学んだ。

豊後高田市草地小



9月、地区の郷土芸能で県の選択無形民俗文化財である「草地踊り」についても取材。太鼓のたたき手として草地踊りに携わる近藤勝司さん(60)を招き、太鼓のたたき方やど

伝えたい地域の魅力



きなど地区の伝統を体験した。取材後、大分合同新聞社ニュース編集部の大石修一記者(45)の授業を受け、見出しやレイアウトを一緒に考えて紙面を完成させた。



この企画は小学生(主に5、6年生)が、地域の魅力や課題を取材し、新聞にまとめる作業を通して古里を見詰め直すことを目的としています。問い合わせは大分合同新聞社地域連携室「飛び出せ学校」係へ。☎097-538-9729、Eメールnie@oita.press.co.jp